

パナ、TV欧州生産撤退

来年3月末 拠点集約コスト減

パナソニックは21日、2022年3月末に、欧州の生産拠点をあるチエコのテレビ生産から撤退する方針を明らかにした。自社のテレビ工場はマレーシアと台湾のみとなる。生産拠点を集約してテレビ事業のコスト削減を進め、赤字体質からの脱却を図る。

チエコ工場は欧州唯一のテレビの生産拠点で、約800人が勤務している。このうちテレビ工場は約400人で、一部は敷地内にある製機機の生産ラインに移るが、大半は解雇する。年100万台とみられるテレビ生産は他社に委託し、販売は継続する方針。

パナソニックは一時、欧州からテレビの生産、販売とも撤退を検討したが、21年3月期に黒字化したことを受け、5月に生産を続ける方針を示していた。だが、メキシコ、20年度は白字と

今後海外勢との価格競争が激しくなることが予想され、さらなる拠点の集約が必要と判断したとみられる。

パナソニックは19年度に2000万台規模のテレビを販売していたが、近年は低迷しており、20年度の販売台数は約360万台にまで落ち込んでいる。

インド、ベトナムのテレビ生産から撤退した。今年11月にはブラジルからも撤退する。自社生産は主に高性能の上位機種に絞り、低価格帯は中国の工場大手TCLに生産委託する方針だ。

パナソニックは世界で年2000万台規模のテレビを販売していたが、近年は低迷しており、20年度の販売台数は約360万台にまで落ち込んでいる。

「パナ、TV欧州生産 撤退」(読売新聞、2021-10-22、朝刊、P.8)。
 このところ日本の電機メーカーに関して、良いニュースを聞くことがほとんどなくなってしまったように思う。東芝は数年前にテレビ事業を中国のハイセンスに売却してしまったし、シャープに関してはいまや会社ごと台湾の鴻海精密の傘下である。もちろん、そういったマイナスイメージを抱かせる報道が印象に残っているだけで、ほかのところを目を向ければ日本企業が世界シェアの大部分を占めている分野はある。しかし、テレビに関して言うならば、ほんの10年くらい前までは日本企業が強さを誇っていた製品でもあっただけに、凋落、という印象が強い。実際、家電量販店のテレビ売り場でも、前述のハイセンスなどアジア系メーカーの名前を見かけることが多くなってきた。

どうして海外、特に中国や韓国のメーカーの製品が強いのか、と思って考えてみると、答えは明白である。何と云っても、コストパフォーマンスが圧倒的に優れている。私も、さすがにテレビは買わないけれど、スマホ、イヤホン、Bluetoothスピーカーなど、身の回りのデバイスはすべて中国のメーカーのものだ。スピーカーなど、高校生でも十分手が出る価格帯である。それなのに音質に大きな不満はないし、防水性能やバッテリー持ちの良さなど、かなり使い勝手が良い。というわけで、「高くても良いもの」と「安くてもまあまあ良いもの」が並べられていたら、私なら「安くてもまあまあ良いもの」を買う。昔ならいざ知らず、他国の企業が「安くてもまあまあ良いもの」「高くても良いもの」さらには「安くても良いもの」を作ることができるレベルに到達している以上、日本のメーカーは今までの「高くても良いもの」では戦えないだろう。「めっちゃ高くてもめっちゃ良いもの」に絞って戦うか、「少し高くても良いもの」で対抗するかの2択だと思う。

とにかく、理屈は置いておいても、日本のメーカーが撤退したりブランドを売却したりというニュースを聞くたびに、日本人として一抹の寂しさを覚えるのは紛れもない事実である。たまには日本のメーカーの製品も買おう。おすすめの日本製イヤホン、誰か教えてくれませんか。

生徒会通信 第12号

(神戸新聞 2021-10 26 日刊 p30)



東京・高輪の新興高級所に入る秋篠宮家の長女眞子さま=25日午前

秋篠宮家の長女眞子さま(30)は25日午前、大塚時代の同級生小室圭さんと結婚される。皇室を離れて民間人となり、「小室圭さま」として午後から記者会見に臨む。

眞子さまは清白、東京・二子。眞子さまは「未婚の初婚の仙傳坂御所を訪れ、孫、眞子は「幼い頃ながら上機天宮様をめぐって」し、心を配って見守られてきた。幸せを願わなかったが、幸せを願わなかった」と語っている。

眞子さまは結婚後、小室さんが東京高輪の高級マンションに在住する。眞子さまは26日午前、東京・元赤坂の高級マンションに移動する。眞子さまは26日午前、東京・元赤坂の高級マンションに移動する。眞子さまは26日午前、東京・元赤坂の高級マンションに移動する。

眞子さまきょう結婚

上皇ご夫妻にあいさつ

秋篠宮家の長女眞子さまの結婚をめぐる問題は、関心を持っている人も多いのではないかと思う。眞子さまは10月26日に結婚され、年末か年明けには民間人としてアメリカでの新生活をスタートされるという。一見すると晴れやかな結婚生活の始まりのようにも思えるが、実際はそうではない。国民の間ではいまだに賛否両論がある。

ちなみに私はというこの結婚に賛成である。婚約者である小室圭さんの母親に金銭トラブルがあると報道されて以来、眞子さまは小室家に嫁ぐべきではないと批判されてきた。結婚に反対する人々の気持ちもよくわかるのだが、眞子さまは皇族であるとはいえ私たちと変わらないひとりの女性なのである。いくら皇族の方でもご自身の好きな人と結婚したいはずであるし、我々国民がわざわざ口を出す必要もないと思う。「眞子さまの将来を思っているからこそ今結婚を批判しているのだ」という意見も SNS では数多く見られたが、私はそうは思わない。国民がどれだけ眞子さまの婚約相手に悪い印象を抱いていたとしても、眞子さまご本人がそれでいいならそれでいいのだと思うし、それは眞子さまが自由に決めることだと思う。

というか、眞子さまの結婚が批判されている主な原因は前述のとおり婚約者の小室圭さんの母親に金銭トラブルがあることであるが、親が良くないことをすればその子どもにまで影響を及ぼすというのはいかがなものか。小室圭さんと婚約すればそのトラブルを起こしている母親は眞子さまにとって義理の母親になるので、皇族の方の立場から良く思われにくいのはもちろんわかっているが、それにしても小室圭さん本人は世間一般から叩かれすぎなのではと思ってしまう。

少し話はそれてしまったが、眞子さまと小室圭さんが幸せになれることを願うばかりだ。

11月15日午後、眞子さまと小室圭さんが結婚される。眞子さまは「未婚の初婚の仙傳坂御所を訪れ、孫、眞子は「幼い頃ながら上機天宮様をめぐって」し、心を配って見守られてきた。幸せを願わなかったが、幸せを願わなかった」と語っている。

眞子さまは結婚後、小室さんが東京高輪の高級マンションに在住する。眞子さまは26日午前、東京・元赤坂の高級マンションに移動する。眞子さまは26日午前、東京・元赤坂の高級マンションに移動する。

1896年に始まった近代オリンピックの前身となったのが古代ギリシアで行われていた「オリンピア祭典競技」、いわゆる古代オリンピックである。古代オリンピックにはギリシア全土から競技者や観客が参加した。当時のギリシアではいくつかのポリスが戦いを繰り返していたが、宗教的に大きな意味のあったオリンピアの祭典には、戦争を中断してでも参加しなければならなかった。「これが聖なる休戦」である。武器を捨て、時には敵地を横切りながらオリンピアを目指して旅をするために、当初は1か月だった聖なる休戦の期間は最終的には3か月ほどになったといわれている。

3か月後の2022年2月4日に北京五輪が開催される予定である。香港や新疆ウイグル自治区での人権侵害が指摘されるなか、米国やヨーロッパの議会関係者からは、北京五輪への首相や閣僚の派遣を見合わせる外交ボイコット論がくすぶっている。平和の祭典であるオリンピックの開催国が言論統制や人権弾圧を行っていることに疑問を抱かずにはいられない。日本ではあまり報道されることはないが、英国やEUの欧州議会では北京五輪への外交ボイコットが議会で可決されたりしている。私は、自由民主主義の国日本で行われた東京五輪では各国の参加選手らが当たり前のようにSNSなどで発言、発信できていたことが、監視や言論統制があると言われる中国でのオリンピックではできない可能性があるのではないかと懸念している。

「もし、米国の選手たちがそこにいるのなら...」。上院外交委員。来年の北京冬季五輪について議員から考えをたざされたバリンズ元国務次官は参加をあくまで仮定として話し始めた。新疆ウイグル自治区や香港の人権弾圧に抗議して北京五輪のボイコットを求める声が米国にはまた根強い。中国大使にバイデン大統領から指名されたバリンズ氏の承認がかかった公聴会は真剣そのものだった。彼らも他の国の選手たちも

北京五輪に自由を

ボトマック通信

自分たちの考えを話すことができ、自分たちが言いたいことを言うためにメディアにアクセスできるようにしてもらいたい。一せなら、同氏は締めくくった。「彼らの出身は民主主義国だからです。ふと、今夏の東京五輪の選手たちを思い出した。競技場や選手村での他国選手との交流や食堂でお気に入りのメニューをSNS（会員制交流）サイトに投稿し、世界中のメディア相手に発言した。ペラルシの陸上選手が独裁者の待つ母国への帰還を免れ第三国に亡命したのも、不当を訴えることができたからだ。東京で当たり前だった選手の「言論の自由」。米国はそれを北京五輪参加の条件にしようというのか。10年ぶりに赴任したワシントンには米中対立の渦中にある。経済や軍事力だけでなく自由を本気で守る戦い。一切の妥協はないと実感した。(渡辺浩生)

「北京五輪に自由を」(産経新聞. 2021-10-28. 朝刊. P. 8)

生徒会通信 第14号

私は何を書いたらいいのだろうか、新聞の講評などはしたことがないからさっぱり勝手がわからない。今私の眼前にあるのは薄暗く光るパソコンと散乱している教科書類で、時刻は午前1時を過ぎ、頭は全く働かない。明日、いや今日の朝、早起きせねばならないことに若干の絶望を抱いているが、とにかく新聞の講評をしようと思う。

私が手にした新聞の一面は先の衆議院議員総選挙に関するものだった。もっとも日経新聞以外の11月1日の新聞の一面もすべて選挙結果を報じていたが。これに関して、正直私は非常に困った、なぜなら政治に関する話というのは非常にセンシティブな話となってしまうからだ。最初は政治に関する自分の意見を長ったらしく述べてみようとしたが、やはり文が続かないし、なによりよろしくない。とりあえずパラパラと新聞をめくっているとある単語が目についた、「ルパン」である。

私がルパンと聞くと、最初に思い浮かぶのはカリオストロの城で登場したフィアット500だ。この車に対する私の気持ちを表す言葉があるとすれば「あはれ」であると思う。見た目は少しぼろく、あまり早そうにないかわいらしい車が、魔改造によってスポーツカー顔負けのスピードを出することができるという点に、私は非常にロマンを感じる。また小さい車体であるにもかかわらず大量の荷物を積載して峠をかける姿には健気さを感じる。映画を見たことがあるなら、一度は誰しもがこの車に惹かれたことがあるのではないだろうか。今の車にはないある種の趣がこの車にはあると思う。

話がかなりそれてしまった、とにかくルパン三世の第6部が日テレで放映されているそうだ。興味のある人はぜひ見てほしいと思う。全体的にまとまりがなく拙い文章となってしまったが、少しでも多くの人にフィアット500の魅力を知ってもらったら幸いだ。そして将来車メーカーに就職する人がいるなら、こんな車を作ってほしいと紙面の上であるが、私は願うばかりだ。



生徒会通信 第15号

クラシック界 変わる「王道」

前期から生徒会をしているのに講評の当番が回ってきたのは初めてで、しかもそこまで文章力もないので、私が5年間熱を注いでいる音楽についての記事を取り上げてみようと思う。

「クラシック界 変わる『王道』」(朝日新聞、2021-11-05、朝刊、p. 31)時代の移り変わ

りを感じさせる記事だった。世界一歴史のある国際ピアノコンクールに異色な経歴の人物が名を連ねるとは。こんなことを感じている私であるが、まだ16年しか生きていないし、なんなら音楽に本気で取り組み始めたのは中学1年生からなので、経歴も知識も浅い。そのような私がクラシック界の変化に衝撃を受けているのだから、相当「お堅い分野」であることはお分かりいただけるであろう。しかし、このような変化は当然なのかもしれない。

西高生の中でも、ボカロなど新しい音楽の形態を好む人は多いであろう。私は全く詳しくないのでよくわからない。そのような形態が音楽界のウェイトを占め始めたのは言うまでもなく皆さん感じているだろうが、これは時代の変化に伴うものと言えるだろう。音楽史の中でいうと、(中学の音楽で習った範囲の知識になるが)今は「現代音楽」と呼ばれる音楽の形態が栄えている時代で、現代音楽というのは電子機器で音楽を創作し、今まで主流だった人の手による演奏がどんどん使われなくなっているらしい。

俄然生演奏派の私からすると、「このような形態がはやるとはなんて時代だ!」と思っていた。しかし、生演奏と電子機器では、かかる労力が桁違いなのだ。生演奏だと自分の好みの音色のプロを探し出し、イメージを伝えるという作業が加わる。しかも人件費がとてめにかかる。それに対して電子機器で作ると、自分一人がすべての楽器を網羅しているようなものなので、いちいち人とかかわる必要がないし、手軽で安価である。本当に最近だと、会ったこともないような人と音楽を創作しているようなのだ。今の時代に完全に合致しているではないか。このような状況を知ったうえでどうして私は生演奏派なのかというと、生演奏でしかできない表現があるからだ。音の強弱、テンポの変化などの単純な話ではない。音色など、今のところ人間にしか出せない部分だ。人の心に訴えかけるものは、やはりダイレクトな人のこころなのではないだろうか。データサイエンス・リサーチでも「AIにはできないことを」といわれるが、音楽に関しても同じことが言えるのではないかと思う。話は逸れてしまったが、結局私たちも時代の流れの中に立っているのだ。



ショパン国際ピアノコンクールの上位入賞者。(左から)2位の原田真平さん、1位のフルース・リウさん(カナダ)、2位のアレクサンダー・ガジョフさん(イタリア)、3位のマルティン・ガルスニア・ガルシアさん(スペイン)＝10月21日ワルシャワ、読者提供

ショパン・コンクール 多彩な入賞者

「クラシック界 変わる『王道』」(朝日新聞、2021-11-05、朝刊、p. 31)時代の移り変わりを...

審査オンライン公開 演奏の個性エンタメ化

審査の個性エンタメ化... クラシック界の50年ぶり... 審査の個性エンタメ化... クラシック界の50年ぶり... 審査の個性エンタメ化... クラシック界の50年ぶり...

個人でオケ結成 レーベル設立も 2位の原田さん

修学旅行 コロナの影

中止 高校6割・中学5割

コロナの昨年度、中学校の約5割、高校の約6割が修学旅行を中止。公益財団法人「日本修学旅行協会（東京都）」が行った、部学校へのアンケートでそんな実感がわかった。実施した学校は感染者の多い都市部を避ける傾向が見られ、都道府県別の旅行先では、東京や大阪の人気下落が鮮明になった。

▼32面II 誅致に懸命

■修学旅行先(日本修学旅行協会調べ)

実施校は大都

アンケートは全国の国公私立の中学、高校から約3千校ずつ抽出し、中学校は1046校、高校は1147校が回答した。

実施状況について答えた中学校のうち、「中止」は68.5%、

小学校・中学校の頃の一番の思い出と言われると何を思い浮かべるだろうか。様々な行事があった中で修学旅行を思い浮かべる人が多くいるのではないだろうか。実際私自身も小学校での一番の思い出は修学旅行である。だが、中学校は違う。それはなぜか。コロナウイルスの影響で修学旅行がなかったからである。今回はこの修学旅行中止について書こうと思う。

昨年度の修学旅行は全国で、高校が6割、中学校が5割中止となった。姫路では代替旅行に行く学校があったりしたそう。私の中学校では代替案がなく、正直落ち込んだ。だがそんなことも過ぎてしまった今となっては良い思い出なのかもしれない。

時は過ぎていくが、現状コロナウイルスはなくなってはいない。ただこの間、中学の後輩から修学旅行に行ったと聞いた。私は自分のことのようにうれしかった。また、西高でも2年生が修学旅行に行く予定だ。行事が今まで通りに行われることにここまで喜びを感じているとは3年前の私たちはとても想像できなかつただろう。

どんなに時がたっても行事などがなくなったことへの悲しみや、それらが再開したことへの喜びを忘れることはないだろう。今はただ、皆が喜びで溢れることを願うばかりだ。

11月10日、第101代首相に選出された岸田文雄総裁は、親の年収が960万円未満で18歳以下の子どもを対象に、10万円相当の給付を実施することに合意した。10万円の内訳は、年内に現金5万円、入学シーズンに向け、子育てなど使途を限定した5万円分のクーポン、ということであるらしい。

個人的な意見を述べれば、借金まみれの今の日本において、この給付金の財源となる税金を負担するのは若者であり、未来の自分たちからお金を前借りしているに過ぎないのではないかと、各家庭が子どもの養育にかかる費用そのものを減らせる制作を実施すべきではないか、という思いがある。実現が難しいのは承知しているが、岸田政権には何とか頑張っていたらいいと思うし、自分たちは与えられた権利を、日本のために行使する義務があることを忘れてはいけないとも感じる。

話は変わるが昨年4月から給付が開始された特別定額給付金では、各世帯子ども一人につき10万円が配布されたが、私の家庭ではその金でiPad Proを購入した。1年が経過し、弟は無事、スマホ依存、いや、iPad依存症である。給付金の使用による弊害の一例だが、そんな家庭も多かったのではないだろうか。そういったことへの対策かどうかは分からないが、5万円分のクーポンの使途を限定したのはよい判断だと思う。

これから、より多くの人々が安心と幸せを感じられる政治を期待する。

(11月11日 朝日新聞より)

10日午後の衆参両院の本会議で首相に選出された岸田氏は、第2次内閣を発足。外相だった茂木敏充氏が衆議院選後に自民党幹事長となったことを受け、林芳正・元文部科学相を新たに外相に起用し、他の閣僚は再任した。首相は今後、新型コロナウイルスの「第6波」に備えた対応や経済の回復に取り組みほか、首相が掲げる「成長と分配の好循環」をいかに実現するかが問われることになる。12日に「新型コロナウイルス対策の全体像」を示す見込みで、経済対策をまとめる「第6次経済対策」の閣内協議が先行する。

第2次岸田内閣

自民党の岸田文雄総裁は10日召集の特別国会で第101代首相に選出され、自民・公明・海野の連立による第2次岸田内閣を発足させた。内閣発足に先立ち、首相は公明党の山口那津男代表と首相官邸で会談し、18歳以下の子どもを対象にした10万円相当の給付について、所得制限を設けることで合意した。▼2面・バラマキ色 3面・カード普及に課題 4面・野党は、10面・社説、33面・区切り疑問



就学継続へ10万円

首相は10日午後、首相官邸での記者会見で「国民の信頼と共感を得ながら丁寧で寛容な政治を進めていく。この道は常に国民からの信任を保持していく道である」と語った。経済支援策では、18歳以下への給付とは別に「コロナ禍で厳しい経済状況にある学生に対し、就学を継続するための10万

18歳以下給付 年収960万円未満 9割対象 10万円相当

は生活困窮者自立支援金の一部を先給付する」と述べた。首相と山口氏の同日屋の会談では、子どもへの給付の所得制限について、児童手当に準じ、親の年収が960万円以上の子どもの対象から除外することで合意。会談後、山口氏は記者団に「対象世帯のほぼ9割が対象になると見込まれる。政府は対象の子どものために、新型コロナウイルス対策に備えた2021年

家計の予算を先給付して現金5万円を年内に先行給付する。その後、来春の入学シーズンに向け、教育の子育てに使途を限定した5万円分のクーポンを配布する。財源は年内に成立する赤字補正予算で対応する。また、住居確保給付金に1世帯あたり一律10万円を給付し、生活困窮者への融資や住居費などの支援を実施することも改めて合意した。

瀬戸内寂聴さんが亡くなった。私と寂聴さんとの接点は皆無だがどことなくすごく悲しい気持ちがある。なんだか見ているだけでも心が安らぐ寂聴さんが亡くなったのはとても惜しい人を亡くしたものだと思う。恥ずかしながら寂聴さんが作家であったことを知ったのはつい最近のことで、また機会があるときに読んでみようと思ったのが不謹慎な気もするがこれが私の率直な感想である。

人が亡くなって私が考えてしまうことは死についてである。死んだらどうなるのだろうとどうしても考えてしまう。仏教では極楽浄土に行けると説くし、キリスト教では天国に行けると説くが、誰もそれを証言した人はいない。だからこそ宗教があるのだろうと勝手に思っているが、やはり気になる。それにいつ死ぬかもわからない。ずっと長生きするかもしれないし、明日朝起きてこないかもしれない。そして最終的にいきつくのは結局今を大事にしようというとてもありふれた答えである。きっと寂聴さんもそのように一日一日を大切に生きて来られたのだと思う。ご冥福をお祈りいたします。

瀬戸内寂聴さん死去

99歳

作家・僧侶 「源氏物語」 「夏の終り」



90歳を超えても精力的に作品を発表し、月1回の法話も続けた瀬戸内寂聴さん（2016年11月撮影）。

作家で文化勲章受章者、天台宗僧侶の瀬戸内寂聴（せとうち・じゃくちよう）さんが9日午前6時3分、心不全のため京都市内の病院で亡くなった。99歳だった。告別式は近親者のみで行う。喪主は非公表。後日、東京都内で「お別れの会」を開く。

徳島市で生まれ、晴美と命名された。学者だった夫と20歳で結婚し、娘をもつ

「けたもの、夫の教え子と恋に落ち、作家を志して出奔。少女小説を書きながら、丹羽文雄主宰の同人誌「文」

学者」に参加し、1957年に文壇デビューした。初期作品は大胆な性描写が批判されたが、伝記小説「田村俊子」で田村俊子賞、自身の不倫関係を基にした「夏の終り」で女流文学賞を受け、地位を確立。作家・岡本かの子の生涯に迫った「かの子療乱」、婦人解放運動家・伊藤野枝の伝記小説「美は乱調にあり」など、女性の愛と性を見据えた作品を次々に発表し、流行作家となった。

73年に岩手県平泉町の中尊寺で得度。作家で僧侶の今東光から法名「寂聴」を授かり、翌年、京都・嵯峨野に自坊「寂庵」を結んだ。

87年〜2005年には同県二戸市にある天台寺の住職も務め、法話の会を月1回ペースで開くなどして悩みを抱えた人々を励ました。出家後は仏教小説や古典で新境地を開き、1992年、一遍を描いた「花に問え」で谷崎潤一郎賞、96年に西行の人生を追った「白道」で芸術選奨文部大臣賞。6年かけて現代語に訳した「源氏物語」（全10巻）はミリオンセラーとなった。

2001年「場所」で野間文芸賞、06年に文化勲章受章。90歳を超えてからも、最後の長編小説と銘打った「いのち」（17年）を刊行した。句作にも熱中し、18年に初句集「ひとり」が星野立子賞などを受けた。社会問題への関心も強く、死刑制度廃止や反戦、反原発の立場で活動した。△評伝33面、関連記事8・33面▽

(はじめに：元々の記事サイズが大きいのを無理矢理小さくしているので読みにくいと思います)

新鮮な発見
東市の伊豆御伊東線、夜中にもかわらぬ、記者を含め約70人が集まった。ホムンで待ち構えるのは、車窓を眺めるノーマーシート付きの観光列車「スターナイトエクスプレス」だ。車内を眺め、先列車は午後10時過ぎ、伊豆豆の海岸に到着し、再び走り出した。

関心アリ!

車窓を眺め、先列車は午後10時過ぎ、伊豆豆の海岸に到着し、再び走り出した。

夜行列車 乗る楽しみ



車内の窓際席に合わせ、車内を眺めた乗客の様子。夜行列車「伊豆御伊東線」。

速さより「非日常」各社続々企画



伊豆御伊東線の夜行列車「スターナイトエクスプレス」が駅に到着する様子。

現代のバリエーション
人々の目を惹くのは、その非日常性です。夜行列車は、単なる移動手段ではなく、旅の楽しみそのものです。車窓を眺め、先列車は午後10時過ぎ、伊豆豆の海岸に到着し、再び走り出した。

夜行列車の魅力
夜行列車の魅力は、その非日常性です。車窓を眺め、先列車は午後10時過ぎ、伊豆豆の海岸に到着し、再び走り出した。

過去に言うべきか

胸躍らせた幼稚園時代の私を嘲笑うかのように、夜行列車はどんどん姿を消した。しかし夜行列車は完全に消えた訳ではない。ブルートレインの代わりに超豪華クルーズトレイン(超豪華と言うだけあり、例えばJR西日本の「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」と言う列車は2泊3日で西日本を周遊する122万円のコースなるものがある)が現れたり、記事のようなローカル線の客寄せに利用したりと、ブルートレインとは離れた夜行列車が最近のトレンドだ。記事中の鉄道会社はいずれも独自の戦略で夜行列車を展開しており、思わず乗りに行きたくなる内容だった。皆さんが想像する「電車のシート」でウトウトたた寝…ではなく(それも列車旅では至福の時間であるのは十分承知である)、列車の中にベッドがあり、地元の名産品を詰め込んだ駅弁に舌鼓を打ち、タタタン、タタタンと規則的に聞こえてくる線路の音が旅情と眠気を誘う…もう想像しただけで最高ではないか。記事を読んでいると、ここ数年が夜行列車復活ブームの始まりと言うには十分であろう。私が大人になった時、どのような夜行列車が走っているだろうか。それまで頑張ってたんで、父親にこう言ってみよう。「大きくなったから、新しくできたこの夜行列車一緒に乗りに行こうよ。」と。

(11月15日刊行、読売新聞より)

姫路の養鶏場 鳥インフル

兵庫県、国に財政支援要請

兵庫県姫路市の養鶏場で17日、高病原性の疑いがある鳥インフルエンザ（H5亜型）の感染が確認された。斎藤元彦知事は同日、金子原二郎農林水産相と面会し、財政的な支援などを要請した。県は養鶏場の採卵鶏約15万5千羽の殺処分を開始。農水省は感染経路を調べるため、調査チームを現地に派遣した。

国内の養鶏場での感染確認は今季4例目。農研機構でさらに分析し、鳥での感染力や致死率が高い高病原性を調べる。数日以内に判明する見込みだという。県は自衛隊に災害派遣を

要請し、共に消毒などの作業を進めた。17日午後5時時点で約1万9500羽を殺処分。処分に3日程度、防疫作業全体に1週間程度かかる見通しだ。また、この養鶏場の半径3キロ圏内のニワトリなどの移動を、半径10キロ圏内にある養鶏場からのニワトリなどの搬出を禁じた。ただ、仮に卵や鶏肉などを食べたとしても人がウイルスに感染するとはないとしている。

農水相との面会後に報道陣の取材に応じた知事は、感染蔓延や風評被害を防ぐ措置への支援などを国に要望したと説明した。（武田遼）

11月17日姫路市の養鶏場で鳥インフルエンザの感染が確認された。鳥インフルと聞いて私が1番に思ったことは、「そういえば去年インフル流行らなかったな…」であった。まあそんなどうでもよいことは置いて本題に移らせていただく。皆さんは鳥インフルエンザについての正しい知識を持っているだろうか。ちなみに私は持っていなかった。ここで軽く基礎知識をおさらいしておこう。（以下農林水産省HP参照）鳥インフルエンザはA型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥の病気である。現在日本ではヒトが鳥インフルエンザに感染した例はないが、まれにヒトに感染することがあるようだ。しかし恐ろしいのは、家きんで鳥インフルエンザが発生すると、その多くが死んでしまうということだ。そのため鳥インフルエンザが発生した場合、厳しい対応がなされるのだと今回の一件で初めて知った。新聞によると胸の痛い話だが1万9500羽が処分され、3キロ・10キロ以内でそれぞれ鶏の移動が制限されるそうだ。しかし、鳥インフルエンザに感染した鶏の肉も、70℃以上で加熱すれば鳥インフルエンザは感染性を失うので、加熱すれば食べても感染の心配はないようだ。そのため過度に鳥インフルエンザを警戒して養鶏業者に対する批判や偏見などがあるてはならない。国や兵庫県には鳥インフルエンザの感染予防や消毒も確かに大事だが、鳥インフルエンザに対する正しい知識を住民に発信し、養鶏業者への風評被害防ぐ取り組みを期待したい。